

短報

群馬県新産外来植物・シラユキゲシ
(*Eomecon chionantha* Hance : ケシ科)

大森威宏

群馬県立自然史博物館：群馬県富岡市上黒岩1674-1 (ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

要旨：シラユキゲシ (*Eomecon chionantha* Hance : ケシ科) の生育が群馬県から確認された。シラユキゲシは、2009年に桐生市菱町の沢沿いのスギ植林地に、7×4mのパッチを形成していた。シラユキゲシはよく分枝する地下茎によって繁殖し、桐生市でも林床に優占することが確認できたため、在来の林床植物に対する影響が危惧される。

キーワード：シラユキゲシ、外来植物、桐生市、林床。

Eomecon chionantha Hance (Papaveraceae),
newly naturalized in Kiryu, Gunma Prefecture, central Japan

OHMORI Takehiro

Gunma Museum of Natural History:
1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma Prefecture
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

Abstract : *Eomecon chionantha* Hance (Papaveraceae) is newly reported from Gunma Prefecture, Japan. Plants belonging to this species were found in Kiryu City, Gunma Pref. in 2009. *Eomecon chionantha* grew under *Cryptomeria japonica* plantation and formed a dense stand of 7 x 4 meters by vigorous branching of rhizomes.

Key Words : *Eomecon chionantha* Hance, Kiryu, exotic plant, forest floor.

はじめに

群馬県には2008年末現在492種の国外外来種が記録されている(大森編, 2009)。これらの中には特定外来種のミズヒマワリ (*Gymnocoronis spiranthoides* DC.), オオカワヂシャ (*Veronica anagallis-aquatica* L.) などや、群馬県が独自に指定したナヨクサフジ (*Vicia villosa* Roth subsp. *varia* (Host) Corb.), ウキアゼナ (*Bacopa rotundifolia* (Michx.) Wettst.) などの、生態系等に悪影響を及ぼすおそれがある植物も含まれている(群馬県自然環境課編, 2008)。

シラユキゲシ (*Eomecon chionantha* Hance, Fig.1) は中国南部の山地帯(海拔1400~1800m) 原産のケシ科の多年草で、原産地では林床や渓谷及び路傍に生育し、根生葉の間から花茎をのび3~6月に白い花をつける(Zhang et al., 2008)。シラユキゲシは近年千葉県など国内で逸出が確認され(大場, 2003)、神奈川県川崎市生田緑地では園内の

各地にクローンが形成され、継続して駆除作業が行われるようになった(特定非営利活動法人かわさき自然調査団のHPによる: http://www.geocities.jp/npo_konrac/i)。従来群馬県からシラユキゲシの報告はなかったが、桐生市の山林に生育しているのが確認されたので報告する。

自生地概要

2009年5月15日、筆者は群馬県桐生市菱町茂倉沢にシラユキゲシが群生しているのをみつけた。自生地は海拔180mに位置する沢沿いのスギ植林地で林道に面しており、林縁に沿ってシラユキゲシが7m×4mにわたって植被率75%以上で優占していた(Fig. 2)。シラユキゲシ以外の林床植物はシロイトスゲ *Carex alterniflora* Franch. var. *alterniflora*, オシダ *Dryopteris crassirhizoma* Nakaiなどで絶滅危惧種は認められなかった。シラユキゲシ自生地は、最も近い集落から未舗装の林道を1kmのぼった場所に位置し、周囲は

道幅が広がっている。付近には人家や公園などの公共施設はまったくないが、沢の奥には鉱山跡や寺跡があり、これらの文化財を探訪する人の駐車スペースとして利用されていると考えられる。本調査の証拠標本（大森威宏7106）は群馬県立自然史博物館に収蔵し、重複標本を国立科学博物館（TNS）に寄贈した。

考 察

今回桐生市で見いだされたシラユキゲシの自生地は、人家や観光施設から離れた位置にあり、人家から逸出したとは考えにくい。しかし、自生地は林道に隣接しており、また、史跡へのルート沿いにあるため、花が美しいシラユキゲシをスギ植林地の林床に意図的に植えたか、または自宅で増殖した株を何らかの理由で遺棄したと考えられる。シラユキゲシは原産地でも温帯性の林床植物で（Zhang et al., 2008）、林縁に近ければスギ植林地でも定着して優占群落を形成できることから、耐陰性が強く、日本の自然林や二次林でも十分生育できると考えられる。しかも根茎で旺盛にクローン成長を行い、草丈は40cmに達し、さらに早春季植物と生育期間が完全に一致するため、小型の早春季植物などの在来の林床植物に対して重大な影響を与える可能性があると考えられる。桐生市のシラユキゲシ自生地は、沢の下流域までスギが植林され絶滅危惧種の生育が認められないため、絶滅危惧種への影響はないと考えられる。し

かし、桐生市やその周辺を含めた地域にはカッコソウ *Primula kisoana* Miq., オオヤマカタバミ *Oxalis obtriangulata* Maxim., ヒイラギソウ *Ajuga incisa* Maxim. などの絶滅危惧種の小型草本が生育しており、これらの生育域にシラユキゲシが持ち込まれた場合、重大な影響が出ることが危惧される。

Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.: Mogurazawa, Kiryu City, 36°26'46"N, 139°22'44"E, 180m, 15 May, 2009, Takehiro Ohmori 7106 (Gunma Museum of Natural History, TNS).

引用文献

- 群馬県自然環境課編(2008):群馬県外来生物調査報告書. 群馬県自然環境課, 153pp.
- 大場達之(2003):ケシ科 Papaveraceae Juss. 1789. 千葉県史料研究財団(編)千葉県の自然誌 別編4 千葉県植物誌. 千葉県, p.220-230.
- 大森威宏編(2009):群馬県外来植物チェックリスト 2008年版. 群馬県立自然史博物館, 152pp.
- Zhang, M., Su, Z., Lidén, M. and Grey-Wilson, C. (2008): Papaveraceae 罂粟科 ying su ke. In Wu, Z.Y., Raven, P.H. and Hong, D.Y. eds. Flora of China Vol.7. Science Press, Beijing, CN and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis, USA, p.261-428.



Fig. 1 *Eomecon chionantha* (15 May 2009, Mogurazawa, Kiryu City, Gunma Prefecture)



Fig. 2 An *Eomecon chionantha* population in Mogurazawa, Kiryu City, Gunma Prefecture